

はんちゅうナーズ便り

Vol.26

発行人
看護部長室

認知症マフ

マフについては、院内の「S・K・Sニュースで取り上げています

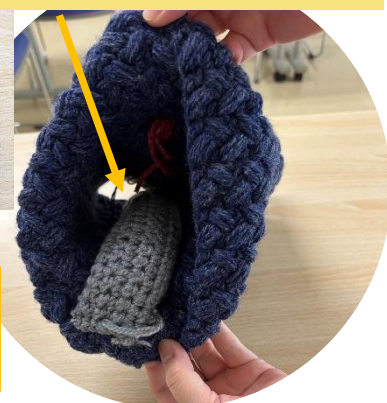
急変 対応



このマフはスタッフが作成しました

身体的拘束最小化委員会では患者さまが安心して過ごせるように認知症マフ着用の取り組みを行っています。

「にぎにぎ」できるように付けました



看護部では、急変時の対応を新人・ラダー別・管理者向けにシュミレーション研修しています

新人向け



ラダー別向け



管理者向け



クローズド・ループ・コミュニケーションが大切！！

ACLSのガイドラインでも強調されている蘇生処置中のコミュニケーション手段で指示内容の復唱と完了報告をチーム内で共有する手法です。



看護部長のひとこと

今、臨床指導者講習会に2名のスタッフが参加しています。戻ってきてくれて、看護学生さんに「ストレスフリー」な看護実習ができるように、また、実習指導を通して看護を伝えることができたと思います。指導者の「患者さまのアセスメントをきちんとしてから足浴の必要性を判断して」という対応は、すごく気になります。ベッドサイドで患者さまにかかわり足浴の必要性を感じた体験は「看護したい」という思いの始まりです。「どのような方法なら患者さまにとって良いのか?」「どのような情報が必要なのか」を問いかけ思考を広げるかわりを大事にしてほしいです。「良い実習にしたい」学校も病院も思いは同じです。未来の仲間をしっかりと育てたい、という真剣な思いを共有できたらよいですね。